

were performed. Whole-body PET correctly depicted all sites of tumor involvement. In four patients, PET depicted new metastases. Although we have not still evaluated the efficiency of the PET scanner, the results suggest that whole-body FDG PET is a useful imaging modality to screen for a wide diversity of tumors.

#### 16. Malignant struma ovarii の 1 例

武田 賢 丸岡 伸 山崎 哲郎  
坂本 澄彦 (東北大・放)

症例は 25 歳の女性。平成 3 年 5 月、右卵巣腫瘍にて右卵巣摘出。平成 6 年 3 月、肺、肝、腹腔、骨盤内に腫瘤を認めたため、生検を施行し、struma ovarii 由来の papillary and insular type の thyroid carcinoma, thyroid carcinoma の metastasis と診断された。同年 8 月甲状腺全摘術を施行したところ甲状腺、周囲頸部リンパ節に tumor は認められなかった。

$^{131}\text{I}$  111 MBq による test dose scan では病変部に強い集積を認めたため、大量内照射療法が有効と思われる。同年 9 月と翌年 5 月に  $^{131}\text{I}$  3.7 MBq による high dose therapy を施行した。Malignant struma ovarii というきわめて稀な疾患に対し大量内照射療法を施行した症例を経験したので、ここに報告した。

#### 17. 横隔膜ヘルニア術後例における肺換気・肺血流シンチグラフィの検討

佐藤 公彦 小林 満 橋本 学  
平野 弘子 戸村 則昭 渡会 二郎  
(秋田大・放)

先天性横隔膜ヘルニアの術後例について肺換気シンチグラフィと肺血流シンチグラフィを比較検討した。 $^{81\text{m}}\text{Kr}$  ガスと  $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MAA を用いて、視覚的および半定量的な評価をした。対象は左ボホダレックヘルニアが 4 例、右ボホダレックヘルニアが 1 例の計 5 例である。手術の 1 か月から 12 年後に肺換気シンチおよび肺血流シンチを施行した。換気血流不均等は術後早期施行例では小さく、術後後期施行例で大きく認められた。術前 A-aDO<sub>2</sub> が大きく、挿管期間が長い症例で術後肺機能が不良であった。術後後期施行例で換気血流不均等が大きいのは、換気はしだいに改善する一方で、血流は改善しにくいと推察さ

れる。今後は経時的な変化を検討する必要があると考えられる。

#### 18. 当世 RI-venography 考；3D-CT の出現によって

吉田 悟 藤森 研司 武田 美貴  
玉川 光春 秋葉 英成 森田 和夫  
(札幌医大・放)

末梢静脈疾患 4 症例で、Spiral CT venography (MIP) と RI-venography の結果を比較した。 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MAA による RI-venography の特徴、1) 26-G の細い針でも可能なため、患側四肢の腫脹が著明でも施行できる。2) 正面像のみでは深部方向の評価が困難なことがある。3) 駆血を十分にしても、表在静脈のみに RI が流れ深部静脈が描出されないことがある。4) 狭窄や浮遊血栓は異常を示さないことがある。5) 肺血流も同時に評価ができる。

#### 19. 不安定狭心症における安静時 $^{123}\text{I}$ -BMIPP 心筋シンチグラフィの意義

木村 元政 月俣 耕一 酒井 邦夫  
(新潟大・放)  
石黒 淳司 岡部 正明  
(立川総合病院・循内)  
石田 均 山本 功 (同・放)

冠動脈に AHA 分類 90% 以上の狭窄を有する不安定狭心症 22 例 (1 枝病変；13 例／2 枝病変；3 例／3 枝病変；6 例) において、 $^{201}\text{Tl}$  同時収集による安静時  $^{123}\text{I}$ -BMIPP 心筋シンチグラフィを施行した。Tl では 56% (10/18) に、BMIPP 早期像では 59% (13/22) に、BMIPP 遅延像では新たに集積低下が 6 例に出現し 86% (19/22) で冠動脈病変を示唆する集積低下が認められた。1 枝病変 11 例および 2 枝病変 1 例に PTCA が施行されており、負荷検査が施行できない不安定狭心症の診断には、安静時 BMIPP 遅延像が有用であると考える。